

健康回復支援実習

[実習] 第4学年 前期 必修 3単位

《担当者名》○唐津ふさ karatu23@hoku-iryo-u.ac.jp 熊谷歌織 神田直樹 高木由希 伊藤加奈子 桑原ゆみ

【概要】

実践的な実習体験をするために、看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護の役割機能について実践的に学ぶ

【学修目標】

1. 複数の対象者それぞれのニーズに応じた個別性のある看護援助を実践できる
2. 複数の対象者を受け持ち、優先性を踏まえた援助計画を立案し、実施・評価できる
3. 看護チームにおける自らの役割を踏まえ、主体的にメンバーシップを発揮して看護援助を実践できる
4. 看護の調整的役割について理解できる
5. 専門職業人としての自己の課題を明らかにし、今後の取り組みを考えることができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1週	受け持ち患者の理解	1. 受け持ち患者を概略的に把握する 2. 看護チームが立案した計画をもとに、ケアを実施・評価する	唐津，熊谷，神田，高木，伊藤，桑原
第2週	看護チームの一員としての看護実践	1. 個別性優先性を踏まえた援助計画を立案し、実施・評価する 2. 看護チームの一員としてケアに積極的に参加し、チームの機能・メンバーの役割について考察する	唐津，熊谷，神田，高木，伊藤，桑原
第3週	看護の調整的役割の理解と実践 実習のまとめ	1. 対象者の視点から療養環境（物理的・人的）に着目し、調整を図る 2. 多職種との連携・調整について理解する 3. 実習目標達成度の評価と自己課題の明確化	唐津，熊谷，神田，高木，伊藤，桑原

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

1. 実習終了時に以下の資料に基づいて総合的に評価し、単位を認定する
実習目標達成度（60％）、レポート（20％）、実習記録その他（20％）
2. 学生は自己の体験を客観的に見つめ、自己の課題を明らかにするために、実習目標達成度評価表を用いて自己評価する
3. 実習目標達成度については、実習終了時に評価面接を行い評価する
4. 評価の内容は提出資料に記載し、その返却をもって開示する

【教科書】

特に定めない

【参考書】

実習内容や学習状況に合わせて提示する

【備考】

Google Classroomを利用して、課題や記録用紙などの提示を行う

【学修の準備】

1. 毎日の実習開始前に受け持ち患者の病態や治療、および必要と考えられる看護援助の内容と方法について学習し、所定の用紙を用いて行動計画を作成する。（90分）
2. 実習終了後は所定の用紙を用いて実施記録を作成し、翌日以降の実習に向けて考察を深める。（90分）
3. 実習開始前までにこれまでの履修科目で使用したテキスト・資料等を整理し、復習をしておく。また、基本的な看護技術についても復習し、身につけておく。
4. 実習開始前までにこれまでに履修したすべての実習を振り返り、実習における自己の学習課題を明確にしておく。

【実務経験】

唐津ふさ(看護師) 熊谷 歌織(看護師) 神田直樹(看護師) 高木由希(看護師) 伊藤加奈子(看護師) 桑原ゆみ(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

看護師としての実務経験から、看護チームの一員として個別性・優先性を考慮しながら実施する看護援助について助言・指導を行なう。また、看護実践の場においての臨床判断能力の獲得ができるように助言・指導を行なう。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している